



2月園だより

令和5年2月1日
目黒区立目黒本町保育園園長

「さむい」と体を一瞬かがめた2歳児クラスの子どもたちは園庭に出るとすぐにタイヤの周りを走り始めます。保育士に促されて準備体操を行ううちに子どもたち自身も走ったり跳んだり体を動かすと温かくなることを体感しているようです。一通り体を温めるとそれぞれ思い思いにバスマットを押して

「工事です」とブルドーザーになって砂を集めだし築山に集結しました。マットの砂を落とすと今度は一人の子が築山の側面にバスマットを並べ座り込むと他の子も次々にやってきました。「グラグラする、お船だ」と築山の不安定さを楽しみながら体を揺らしたり、ハンドルを持つように手を動かし新幹線の運転手になったり築山の遊びは次々に変わりますがそれぞれが自分の経験や想像を広げ友達と同じ遊びを楽しんでいました。一人の子が「めぐろえき」と声を出すと一斉に電車（船）を降り（築山をくだり）また

かけっこが始まったのでした。寒い日は続きますが、心も体も温かくなるように戸外で友達や保育士と一緒に体を動かしていきたいと思います。先月から各クラスの懇談会が始まりました。お忙しい中多数参加頂きありがとうございました。保護者の方々がお子さんの成長や頑張り、悩みを懇談しながら、子育て大変だけど楽しいと感じて頂ける機会になって頂けたら幸いです。



行事予定

節分 全園児
ポニー教室 5歳児

中旬 身体計測 全園児
避難訓練 全園児



クラス懇談会日程

1歳クラス懇談会
4歳クラス懇談会

【時間】 16:30～18:00

【場所】 保育園ホール

※ スリッパをご持参ください



アイデアがいっぱい

～園庭で遊具を組み合わせ遊んでいます～

みんなで引っ張っていくよ

アイス屋さん
コンテナの中は冷蔵庫



雲梯に縄をまいて滑車



タイヤに縄跳びを結び電車に



バスマットが倒れないように
タイヤを合わせて家作り



こぐま組(3歳児クラス)

お庭でも友達と誘い合い何かの役になりながら、ごっこ遊びを楽しんでいます。赤ちゃん役の子が「お腹すいたーばぶー」と甘えると「あらお腹すいたのね。今すぐ作るからね。今日はうどんだよ」お母さん役の子が優しい口調で話し、夕飯を作ってみんなに振る舞ってくれます。おうちごっこにはお母さんや赤ちゃんだけでなく、こどもの劇場に登場した動物もいます。ライオンやくまはこんな風に歩くかな、ご飯はどうやって食べるかなと、自分たちの思うライオンらしさやお母さんらしさの役を想像しながら遊んでいます。劇では別の動物になっていた子がずっとライオン役になっていて、憧れのものになれるのもごっこ遊びの楽しさの一つです。他の友達がケーキ屋を始めると「ちょっと買いに行ってくる」と出掛けていきそこでまた買い物ごっこが始まります。自分が経験したことを遊びの中に取り入れたり、自分の頭の中で想像したイメージを膨らませて役になりきったりと、友達とやりとりしながら一緒に遊ぶことを楽しんでいます。



ぞう組(4歳児クラス)

園庭でおままごとをしている時に「先生泥団子作ろうよ」と保育士も友達も一緒に作り始めます。泥を丸めながら保育士が「これたくさん磨くとピカピカになるんだよね、先生挑戦してみようかな」とつぶやくと、手の中にある泥団子を見つめ「え、これがピカピカになるの」「どうしたらピカピカになるの」と目を輝かせています。保育士が簡単に作り方を伝えると、「じゃあ白砂をみんなで集めよう」「私入れ物持ってくるね、みんなで使うのはどう」「そうしよう」とつやつやピカピカ泥団子作り大作戦が始まりました。ふるいにかけて細かい白砂や砂利を交互にかけるなど自分で考えた方法を試したり、らいおん組に教えてもらったりしながら作っています。途中で泥団子が欠けてしまったり、壊れてしまったりすることもあります。もう一回作ろうと諦めずに挑戦する姿もあります。白くなった泥団子を布で磨いていると、最初のざらざらした表面から少しずつ凹凸がなくなり「ねえ、硬くなってきたよ。もうちょっとでピカピカ団子になるかも」と期待を膨らませています。進級したころは、たくさん泥団子を作ることに満足していましたが、最近の一つを丁寧にピカピカに仕上げることに楽しみ方が変わってきました。同じ遊びの中でも、自分の思う形にするための方法や力加減などを試行錯誤しながら楽しんでいます。



らいおん組(5歳児クラス)

昨年の秋から将棋を楽しんでいて、進む方向が矢印で示されている駒を使っています。始めた頃は将棋経験のある友達同士での対戦を囲んで見ていた子ども達も、保育士や友達と一緒に将棋盤で駒を動かしてみたり、将棋崩しをしたり、それぞれのペースで将棋と触れ合ってきました。周りで友達が教えようとする、「自分で考えたい」「対戦しているから教えないでほしい」と1対1の頭脳戦に真剣です。その気持ちを理解して周りの子もじっと決着がつくまで見守っています。また、自分の駒を早く進めて王将を取りたいという思いで「早くして」と言う姿もありましたが、だんだんと将棋は考えれば考える程良い手が見つかる事、お互いに相手の考えを数手先まで読んでなかなか勝負がつかない面白さにも気が付くようになりました。今では何十分もかかる勝負を楽しめるようになり、保育士もなかなか勝てない位にめきめきと力を伸ばしています。難しい、分からないからやらないと言って遠ざけていた子も友達が挑戦する姿を見て「やってみようかな」と友達に教えてもらうようになってきました。まだまだ将棋ブームは続きそうです。

